

大覚寺身振り狂言
大物之浦
2014.2.3.



平家追討に功績をあげた源義経でしたが、頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ到着。

義経の愛妾、静(しずか)も一行に伴って同道していましたが、女の身で困難な道のりをこれ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあって、都に戻ることにしました。

別れの宴の席で、静は舞を舞い、義経の未来を祈り、再会を願いながら、涙にくれて義経を見送ります。静との別れを惜しみ、出発をためらう義経に、弁慶は強引に船出を命じます。

すると、船が海上に出るや否や、突然暴風に見舞われ、波の上に、壇ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が姿を現しました。なかでも総大将であった平知盛(とももり)の怨霊は、是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかります。弁慶は、数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈祷します。

その祈りの力によって、明け方に怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました。





かんがら ガンガン 鉦と鼓が境内になり引き 尼崎節分の伝統行事 大覚寺身振り狂言「大物之浦」の始まりです。
平家追討に功績をあげた源義経でしたが、頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。
義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ



義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ
義経の愛妾、静(しずか)は、一行に伴って同道していましたが、
女の身で困難な道のりを これ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあって、都に戻ることに



義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ
義経の愛妾、静(しずか)は、一行に伴って同道していましたが、
女の身で困難な道のりをこれ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあって、都に戻ることに。



義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ
大物之浦へ 船を向けよう



義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ
「船頭よ いざ 大物之浦へ 船を向けよ」



摂津の国大物の浦へ到着した一行 弁慶の進言もあって
「女の身で 困難な道のりをこれ以上進むことは難しい」と静御前に
同道していた静御前は 泣く泣く都に戻ることに



摂津の国大物の浦へ到着した一行 弁慶の進言もあって
「女の身で 困難な道のりをこれ以上進むことは難しい」と静御前に
同道していた静御前は 泣く泣く都に戻ることに



摂津の国大物の浦へ到着した一行 弁慶の進言もあって
「女の身で 困難な道のりをこれ以上進むことは難しい」と静御前に
同道していた静御前は 泣く泣く都に戻ることに



摂津の国大物の浦へ到着した一行
泣く泣く都に帰ることになった静御前は
宴席を開いて 再会を願いつつ、義経と別れの酒を酌み交わす



摂津の国大物の浦へ到着した一行
泣く泣く都に帰ることになった静御前は
宴席を開いて 再会を願いつつ、義経と別れの酒を酌み交わす



摂津の国大物の浦へ到着した一行
泣く泣く都に帰ることになった静御前は
宴席を開いて 再会を願いつつ、義経と別れの酒を酌み交わす



摂津の国大物の浦へ到着した一行
泣く泣く都に帰ることになった静御前は
宴席を開いて 再会を願いつつ、義経と別れの酒を酌み交わす



摂津の国大物の浦へ到着した一行
泣く泣く都に帰ることになった静御前は
宴席を開いて 再会を願いつつ、義経と別れの酒を酌み交わす



摂津の国大物の浦へ到着した一行
都に帰ることになった静御前 悲しみをこらえつつ、別れの舞を舞い
義経の未来を祈り、再会を願いつつ、船から去ってゆく



船から降りる静御前の冠が頭からパラリと落ちるシーン
義経と静御前の最後の別れを象徴しているという



準備を整え、潮もよし
静との別れに未練を残しつつ、義経・弁慶一行は大物之浦の湊を漕ぎ出してゆく



準備を整え、潮もよし
静との別れに未練を残しつつ、義経・弁慶一行は大物之浦の湊を漕ぎ出してゆく



船が海上に出るや否や、突然 天候が急変 これはどうしたこと
暴風に見舞われ、波の上に、壇ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が姿を現します



暴風に見舞われた 波の上、平家の総大将で平知盛の怨霊は、
是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかる



暴風に見舞われた 波の上、平家の総大将で平知盛の怨霊は、
是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかる



暴風に見舞われた 波の上、平家の総大将で平知盛の怨霊は、
是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかる



暴風に見舞われた 波の上、平家の総大将で平知盛の怨霊は、
是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかる



薙刀を振りかざして襲いかかる平知盛の怨霊　弁慶は、数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈祷する
その祈りの力によって、明け方に怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました



大覚寺身振り狂言

大物之浦

2014.2.3.



◎「大物之浦」 あらすじ

頼朝に疑われ、西国へ船で逃れるため、尼崎大物之浦にやってきた義経・弁慶一行。船出を前に、「私も連れて行って欲しい」とせがむ静御前に「女連れは難しい」といい含め、静御前は涙ながら最後の別れの舞を舞う。

義経・弁慶一行が船出すると、にわかに空は掻き曇り、風も出て大嵐。現れたのは、壇ノ浦で討たれた平知盛の怨霊。

弁慶が数珠をもみつつ、お経をあげて、一心に祈ると祈りが通じたのか、怨霊は静かに去って静かな海に。

事前に筋書き解説があり、よく知った話なので、「がんがら ガンガン」と鉦と太鼓に合わせて、身振り・しぐさだけで進む無言劇すっかり引き込まれていました。

【 おしまい 】



謡曲「船弁慶」をもとにした大覚寺身振り狂言「大物之浦」 より